

平成25年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	赤十字国際委員会(ICRC) 拠出金 (任意拠出金)	担当部局庁	国際協力局	作成責任者								
事業開始・ 終了(予定) 年度	昭和35年度開始	担当課室	緊急・人道支援課	課長 青木 豊								
会計区分	一般会計	政策・施策名	Ⅶー3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際 貢献									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	外務省設置法第4条第3項	関係する計画、 通知等	(1)赤十字国際委員会規程第15条第1項 (2)ジュネーブ外交会議決議11(1949年) (3)第25回赤十字国際会議決議24(1986年)									
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	赤十字国際委員会(ICRC)は、ジュネーブ諸条約にその役割が明記され、人道支援分野等において、他の国際機関にはない独自の活動を行っており、国際的にも高い評価を得ている。また、ノーベル賞を3度以上受賞した世界唯一の機関である。ICRCを支援することは、紛争地域の平和と安定に資するのみならず、我が国が人道危機の解決に対して積極的であるとの姿勢を国内外に示すもの。											
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	ICRCは、紛争犠牲者の保護を中心として、医療支援、食糧・生活物資等の支給、飲料水供給、衛生活動等の「緊急人道支援」を実施しており、我が国や他の国際機関が安全・能力上の制約から支援不可能な状況・場所で、時に「唯一の援助機関」として活動している。また、捕虜や被拘禁者の人道状況の監視、離散家族の安否調査等の「保護」活動や、国際人道法の普及も行っている。ICRCのこのような活動を通じて、紛争で苦しむ人々を支援する。											
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☒ その他											
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求					
		補正予算	293	240	229	202						
		繰越し等	4,230	3,570	3,985	-						
		繰越し等	-	-	-	-						
	計		4,523	3,810	4,214	202						
	執行額		4,523	3,810	4,214							
	執行率(%)		100%	100%	100%							
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)				
	紛争犠牲者の保護の実現				28.5	37.1	38.5					
	(救われた人命数)			成果実績	百万人							
	(注)機関全体の目標及び実績			達成度	%	100%	100%	100%				
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込				
	①保健・医療分野の支援を受けた人数				①5.2百万	①7.1百万	①7.4百万					
	②水・衛生分野の支援を受けた人数			人	②10百万	②21.9百万	②22.0百万					
	③被拘束者訪問人数				③500,928	③540,828	③540,669					
単位当たり コスト	(注)機関全体の指標及び実績			算出根拠	() () () ()							
	31.7スイスフラン/人				33億スイスフラン(2010年から2012年末までにICRCが支出した累積額) ÷104.1100万人(同時期にICRCの支援により救われた累計人命数)＝ 31.7スイスフラン/人							
平成 25 ・ 26 年度 予算 内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由								
	赤十字国際委員会(ICRC)拠 出金	202										
	計	202										

事業所管部局による点検						
	項 目		評 価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	ICRCは、安全・能力上の制約から他の国際機関が活動できない地域においても人道支援活動を実施しており、国としてその活動を支援する必要がある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	ICRCは、国別・物資別の適正な調達価格を設定し、コスト削減に努めている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	ICRCは、成果に基づくマネジメントを実施しており、常に成果目標を立てて、着実な事業の実施に努めている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果						
	主要ドナー国が参加するドナー・サポート・グループ会合等を通じて、引き続き効率的な事業の実施を求めている。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	92	平成23年	86	平成24年	109